

評価額見直しに伴う費用対効果分析結果(正誤表)

3. 費用対効果分析

【成瀬ダム建設事業】

(5) 費用対効果分析(費用便益比)

項目			今回評価(R3年度)		前回評価(H28年度)	
			全体事業 (S58~R8)	残事業 (R4~R8)	全体事業 (S58~H36(R6))	残事業 (H29~H36(R6))
			現在価値化		現在価値化	
C 費用	建設費	①	1,924億円	656億円	1,164億円	669億円
	維持管理費	②	68億円	68億円	54億円	54億円
	総費用	③=①+②	1,992億円	724億円	1,218億円	723億円
B 便益	便益	④	2,381億円	1,353億円	1,561億円	1,155億円
	残存価値	⑤	15億円	35億円	44億円	32億円
	総便益	⑥=④+⑤	2,396億円	1,388億円	1,605億円	1,187億円
費用便益比(CBR) B/C			1.2	1.9	1.3	1.6
純現在価値(NPV) B-C			404億円	664億円	387億円	465億円
経済的内部収益率(EIRR)			6.9%	19.9%	8.6%	23.7%

- 評価基準年次：R3年度
- 総便益(B)：便益は、評価基準年次を現在価値化の基準点とし、治水施設の整備期間と治水施設の完成から50年間までを評価対象期間にした年平均被害軽減期待額を割引率を用いて現在価値化したもの、流水の正常な機能の維持に必要な容量を確保するための「不特定容量身替り建設費」を整備期間に配分して現在価値化して算定したものの総和
※総事業費の変更に伴い身替り建設費を再算定した
- 総費用(C)：評価基準年次を現在価値化の基準点とし、治水施設の整備期間と治水施設の完成から50年間までを評価対象期間にして、建設費と維持管理費を河川分のアロケーション率及び割引率を用いて現在価値化したものの総和
・建設費：成瀬ダム建設に要する費用（残事業は、R3年度以降） ※実施済の建設費は実績費用を計上
・維持管理費：成瀬ダムの維持管理に要する費用
- 割引率：「社会資本整備に係る費用対効果分析に関する統一運用指針」により4.0%とする

■ 感度分析(治水+不特定)

	全体事業 (B/C)	残事業 (B/C)
残事業費 (+10%~-10%)	1.2~1.2	1.8~2.1
残工期 (+10%~-10%)	1.2~1.2	1.9~1.9
資産 (+10%~-10%)	1.2~1.2	2.0~1.8

※便益及びB/Cについて、「治水経済調査マニュアル(案) 各種資産評価単価及びデフレーター 令和3年3月(令和4年2月訂正)」を用いて再計算しました。

その結果、様式-2 資産データ、様式-3 被害額、様式-4 年平均被害軽減期待額、様式-5 費用対便益に数字増減はありましたが、資料-1のP19に示す便益算定結果に訂正はありませんでした。

これを踏まえ、資料-2 参考資料(訂正版)のみ差し替えて公表いたします。